

令和４年度第１回龍ヶ崎市文化財保護審議会 会 議 次 第

令和４年１１月４日（金）午後１時３０分から
龍ヶ崎市役所５階 全員協議会室

- １ 開 会
- ２ 教育長あいさつ
- ３ 委員紹介
- ４ 会長／副会長選出
- ５ 会長あいさつ
- ６ 議 事
 - ・議案第１号 龍ヶ崎市指定有形文化財の指定について
(候補物件：龍崎校木造扁額及び龍崎学校扁額)
- ７ 報 告
 - ・報告第１号 馬場台第２遺跡及び八幡作遺跡の発掘調査について
- ８ 閉 会

【現地視察】歴史民俗資料館 ※任意参加

龍崎校の木造扁額及び龍崎学校の扁額（概要）

龍崎校の木造扁額は、かつては龍ヶ崎小学校の旧木造校舎の正面玄関に掛けてあったものであり、現在は歴史民俗資料館に常設展示されている。この木造扁額は、左端に嘉彰親王書と彫られ、その左下の落款は上側が剥がれ落ちているものの、下側に二品親王（にほんしんのう）と皇族の階位が彫られている。

また、木造扁額の裏には、寄附連名として、龍ヶ崎町、大徳村、八代村、泉村などの住人 9 名の名前と明治 12 年（1879）卯 5 月 18 日と墨書されている。寄附連名に出てくる「山田惟一」は、龍ヶ崎小学校の前身である龍崎学校の校長を務めた人物であり、「椎名健」と「浦上知太郎」も後に龍ヶ崎小学校の校長を務めた人物である。

それまで大統寺を仮教場としていたが、明治 11（1878）年 10 月 13 日に八坂神社裏に校舎を新築し、名称も龍ヶ崎小学校となっていることから、これを記念して寄附されたものであると考えられる。

一方、龍崎学校の扁額は、右上端に「不若與衆」の関防印があるのみだが、この二つの扁額を見比べると、その書体は全く同じものであり、龍崎学校の扁額を基に龍崎校の木造扁額が彫られていることがわかる。

扁額の書をしたためた嘉彰親王《よしあきらしんのう・弘化 3（1846）年～明治 36（1903）年》は、伏見宮邦家親王の第八王子で、慶應 4 年（1868）1 月の鳥羽・伏見の戦いに征東大將軍として参戦し、次いで会津討伐越後口総監となり、戊辰戦争に従軍している。明治 10（1877）年 5 月、西南戦争の負傷者救助団体として博愛社が創立されると 9 月に総長に就任している。その後、明治 20（1887）年、博愛社が日本赤十字社と改名すると、総裁として赤十字活動の発展に貢献している。

嘉彰親王の書による二つの扁額は、龍ヶ崎地域の中心で教育の要を担った龍ヶ崎小学校に関わる資料であり、龍ヶ崎市の近代史における貴重な資料であると考えられる。

(遍) 額寄附連名

村人 山田 惟一 (教員・校長)

河内郡八代村人 椎名 健 (教員・校長)

鹿島郡谷原村人 林 一郎 (教員)

河内郡龍寄早人 浦上知太郎 (教員・校長)

同郡大徳村人 石島昌三郎 (教員?)

同郡同村人 石島善太郎 (実業家)

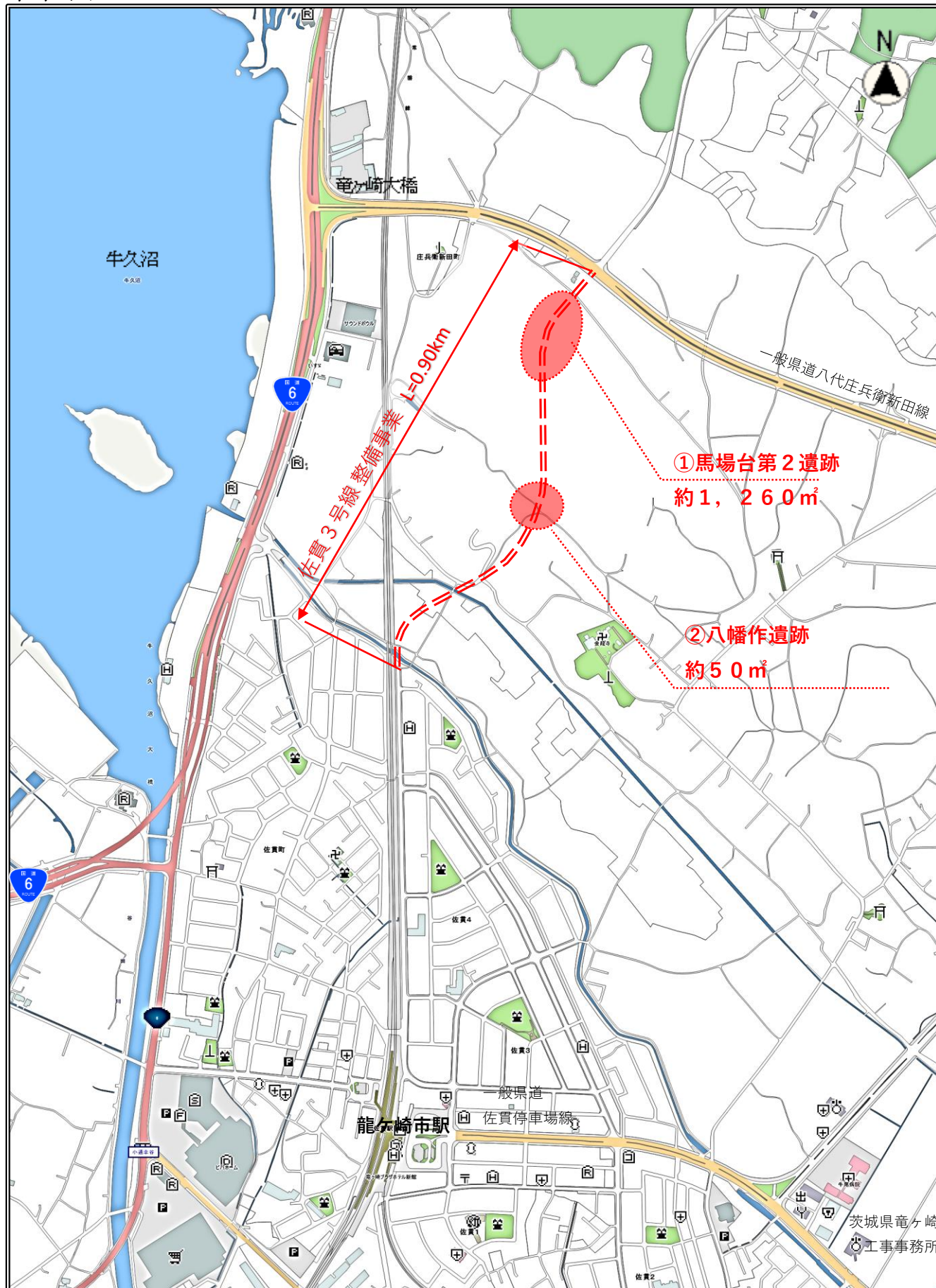
同郡同村人 伊藤 棨二郎

同郡泉村人 木村久之助

同郡大徳村人 秋山勇之助 (農業)

明治一二年卯五月一八日

位置図



縮尺S=1/10000